

ICOM

ご使用になる前に

VoIP EXPANSION UNIT VE-PG2

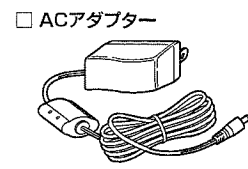
このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。
 本製品は、弊社製無線機をVoIPネットワークに融合するコンバーターユニットです。
 本書をお読みいただく前に、別紙の「ご注意と保守について」、「接続の前にお読みください」をよくお読みいただき、本製品を正しくご使用ください。

手順1:ご使用になる前に → 手順2:導入ガイド① → 手順3:導入ガイド②

1. 必要なものを確認する

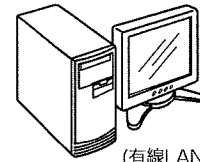
付属品について

- マスクシート
- CD(取扱説明書、監視ツール収録)
- 接続の前にお読みください
- ご注意と保守について
- ご使用になる前に(本書)
- 導入ガイド①
- 導入ガイド②
- 保証書



ご用意していただくもの

- 設定用パソコン
- LANケーブル
- アース線
- HUB
- 弊社製無線機
- お使いになる弊社製無線機の取扱説明書
- 弊社製VoIPルーター



(有線LAN端末)

100BASE-TX
以上対応の製品

(本製品をコンバーターモードで
ご使用になる場合)

ご使用になる前に(本書)について

本製品の動作モード(ブリッジモード、コンバーターモード)、本製品の設定手順について説明しています。
 本製品の設定のしかたについては、別紙の「導入ガイド①」、「導入ガイド②」をお読みください。

【有線LAN端末の接続について】

本製品は、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)の自動判別機能に対応していませんので、パソコンを本製品に直接接続するときは、クロス結線されたLANケーブル(市販品)をご用意ください。
 また、本製品を自動判別機能に対応しないHUBと接続するときは、極性にご注意ください。

極性を間違えると、[LAN]ランプが点灯しません。
 ※100BASE-TXより低速なHUBは、意図しない動作で通信に障害を与えるなど、通信速度低下の原因になりますので、接続しないでください。

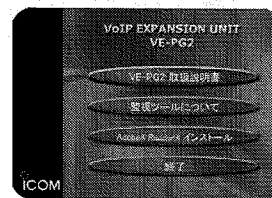
付属のCD(UTILITY DISK)について

■収録内容について

- ◎ VE-PG2取扱説明書(PDF形式)
- ◎ 監視ツール取扱説明書(PDF形式)
- ◎ 監視ツール
- ◎ Adobe® Reader® 9.0

■使用方法について

パソコンのCDドライブに挿入すると、自動的に表示されるメニュー画面から、目的のボタンをクリックします。
 ※自動的に表示しないときは、CDの中身を開いて、「Autorun.exe」をダブルクリックします。



別売品について

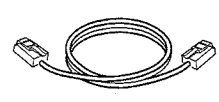
△警告

本製品と無線機の接続には、必ず弊社指定のケーブルを使用してください。
 弊社指定以外のケーブルを使用すると、本製品や無線機の故障の原因になりますので、絶対に使用しないでください。
 特に車載型無線機接続ケーブルは、一般的なLANケーブルやISDNケーブルとコネクタ形状が同じですが、内部配線が異なります。

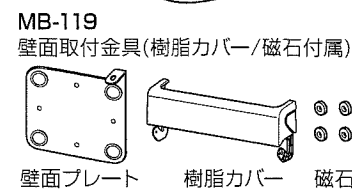
OPC-1982¹⁾/OPC-2056^{2)*3}
携帯型無線機接続ケーブル



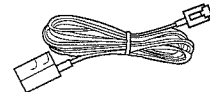
OPC-2022¹⁾/OPC-2057^{2)*3}
車載型無線機接続ケーブル



¹⁾長さ:約1.5m
²⁾長さ:約5m
³⁾近日発売予定



OPC-647
延長ケーブル(約2.5m)
※OPC-1982/OPC-2022の延長用です。
(1本だけ接続できます)



AD-107
IC-4800用外部電源装置
※IC-4800以外の無線機には使用しないでください。

■別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
 弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

2. 本製品の動作モードについて

本製品には、「ブリッジモード(出荷時の設定)」と「コンバーターモード」の動作モードがあります。
 ※弊社指定のケーブルで本製品に接続された無線機と端末側無線機は、同じチャンネルに設定してください。
 ※特定の端末側無線機だけを個別に呼び出せません。

1. 「ブリッジモード」について

はなれたエリア間を無線機で通話する場合、ブリッジモードに設定してください。

無線機と直接接続された本製品同士をHUBと接続します。

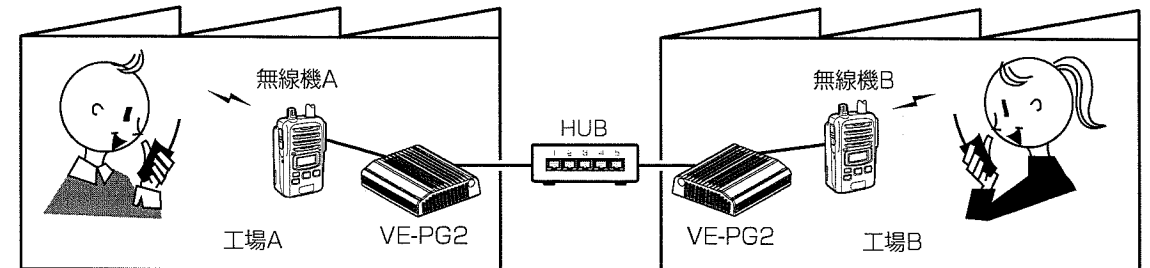
本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機(例:無線機A、無線機B)は、本製品のIPアドレスとポート番号により識別されます。

弊社製VoIPルーター(簡易中継サーバー)の設置が不要で、設定が簡単です。ただし、IP電話機との相互通話はできません。

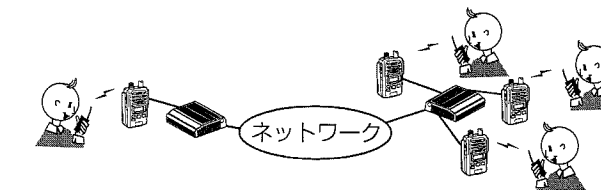
ブリッジモードには、「マルチキャストモード」での運用、または「ユニキャストモード」での運用があります。

◎「マルチキャストモード」とは、本製品に接続しているすべての無線機に送信する場合に使用するモードです。(初期設定値)

◎「ユニキャストモード」とは、単一の通信ポートを指定して、本製品に接続している特定の無線機に送信する場合に使用するモードです。



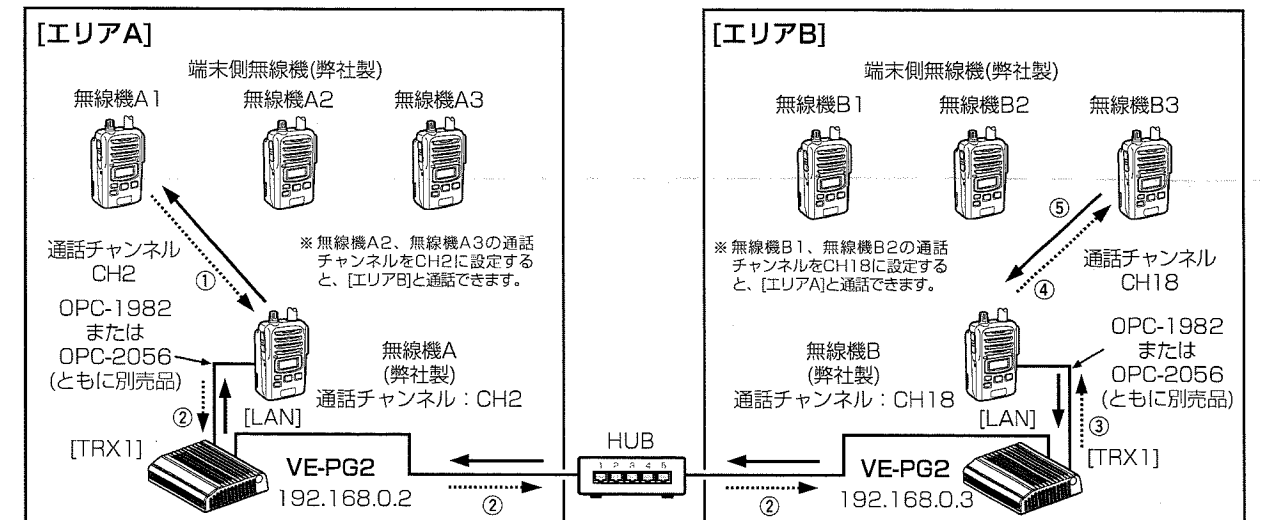
ブリッジモードのイメージ図



接続しているすべての無線機に送信
マルチキャストモードのイメージ図



接続している特定の無線機に送信
ユニキャストモードのイメージ図



ブリッジモード(マルチキャストモード)の接続例

◎ブリッジモードの運用例:[エリアA]の無線機A1から[エリアB]の無線機B3を呼び出すとき

- ① 無線機A1の通話チャンネルをCH2に設定し、送信しながら発声して無線機B3を呼び出します。
- ② 無線機Aが無線機A1からの電波を受信すると、[エリアA]の本製品の[TRX1]ポートを経由して、[エリアB]の本製品に送出します。
- ③ [エリアB]の本製品は、[TRX1]ポートから音声信号を無線機Bに送出します。
- ④ 無線機Bは入力された音声信号を送信し、無線機B3がその電波を受信します。
- ⑤ 無線機B3についても逆の経路により送信できます。

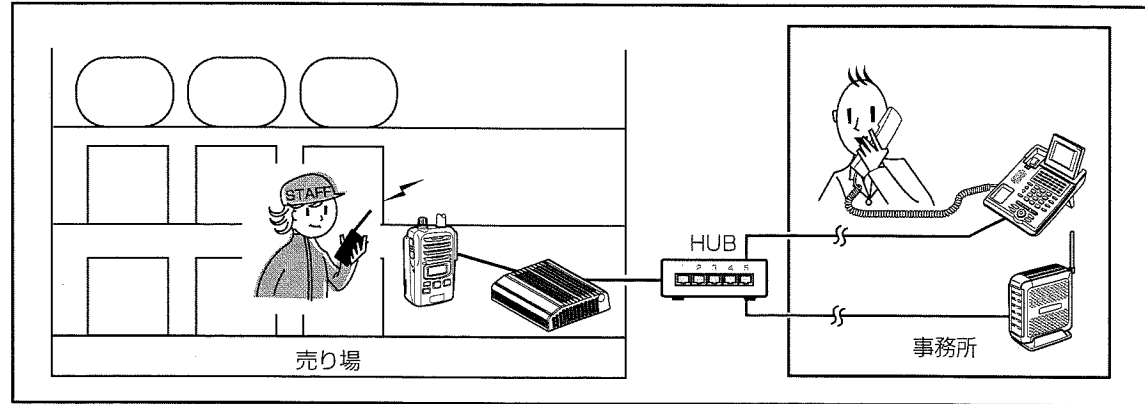
2. 本製品の動作モードについて(つづき)

2. 「コンバーターモード」について

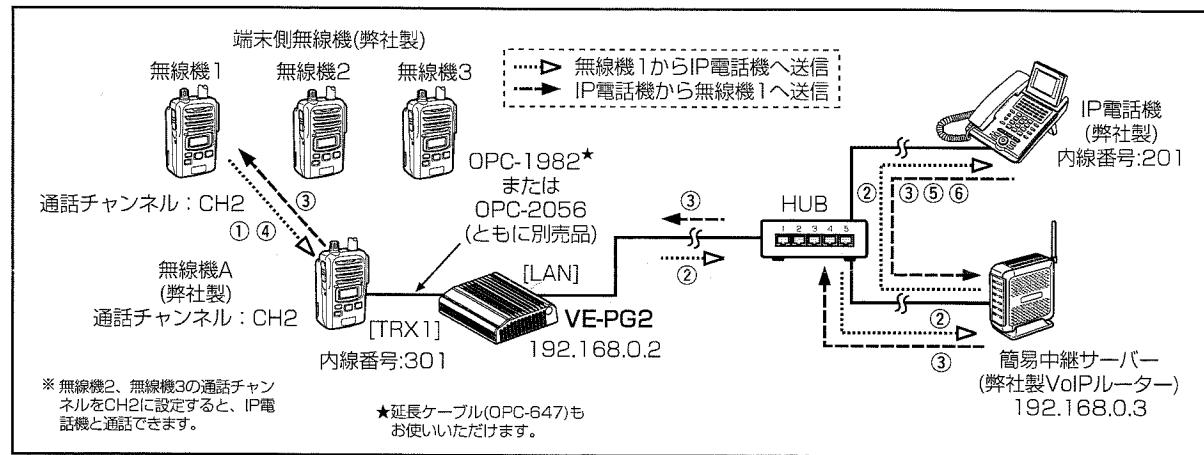
IP電話機と無線機で通話する場合、コンバーターモードに設定してください。

IP電話機を制御する弊社製VoIPルーター(簡易中継サーバー)の子機として、本製品を利用します。

弊社製VoIPルーター(簡易中継サーバー)を設置し、本製品の[TRX1]～[TRX3]ポートに内線番号を割り当てる必要があります。



コンバーターモードのイメージ図



コンバーターモードの接続例

◎コンバーターモードの運用例:無線機1からIP電話機を呼び出すとき

- ① 無線機1の通話チャンネルをCH2に設定し、送信しながら発声してIP電話機を呼び出します。
- ② 無線機Aが無線機1からの電波を受信すると、本製品は事前に設定された内線番号(201)への発信を弊社製VoIPルーター(簡易中継サーバー)に要求します。
このとき、IP電話機は呼び出し音が鳴ります。
- ③ IP電話機を受話器を上げて発声すると、本製品を経由した音声信号が無線機Aに入力されます。
無線機Aでは音声検知され、無線機AがIP電話機の音声信号を送信します。
- ④ 双方向通信には対応していませんので、IP電話機が話し終えてから無線機1が発声し、無線機1が話し終えてからIP電話機が発声して通話します。
- ⑤ IP電話機を受話器を置くと、通信が切断されます。
無線機1、IP電話機ともに無音状態が15秒(無通話切断タイマーの初期設定値)つづいた場合、通信が切断されます。
- ⑥ IP電話機から無線機1を呼び出す場合は、内線番号(301)に電話をかけます。

3. 設定手順について

1. 接続する無線機を設定する(「導入ガイド①」を参照)

「導入ガイド①」を参照して、無線機を設定してください。

2. ネットワークを設定する(「導入ガイド①」を参照)

「導入ガイド①」を参照して、本製品のネットワークを設定してください。

※LANケーブルは必ず[LAN]ポートに接続してください。[TRX1]～[TRX3]ポートに接続すると、本製品が故障する原因になります。

3. 本製品に無線機を接続する(「導入ガイド②」を参照)

「導入ガイド②」を参照して、本製品に無線機を接続してください。

※弊社指定の別売品接続ケーブル(OPC-1982*, OPC-2022*, OPC-2056, OPC-2057)を必ずご使用ください。

※弊社指定以外の接続ケーブルを使用すると、本製品、無線機が故障する原因になります。

★延長ケーブル(OPC-647)をお使いいただけます。

「ブリッジモード」で使用する場合

- ◎マルチキャストモード(初期設定値)でご使用になる場合、本製品のIPアドレスを設定するだけで使用できます(「導入ガイド①」を参照)。
- ◎ユニキャストモードでご使用になる場合、「導入ガイド②」の表面を参照して本製品を設定してください。

「コンバーターモード」で使用する場合

4. 本製品をコンバーターモードに設定する(「導入ガイド②」の裏面を参照)

「導入ガイド②」の裏面を参照して、本製品をコンバーターモードに設定してください。

弊社製VoIP製品も設定してください。

本製品に接続された無線機の設置場所には、無線機の送信状態などを監視する管理者が必要です。

設置した場所に管理者がいない状態でご使用になるときは、本製品と同じネットワークに接続されたパソコンから監視ツールを起動して、監視できる環境を構築してください。

監視ツールのインストールや操作方法については、CD(付属品)に収録されている取扱説明書(監視ツールについて)をご確認ください。

4. 接続や設定についてのご注意

- ◎本製品と無線機の接続には、弊社指定のケーブル(OPC-1982*, OPC-2022*, OPC-2056, OPC-2057)を必ずご使用ください。
★延長ケーブル(OPC-647)をお使いいただけます。
- ◎LANケーブルなど弊社指定以外のケーブルを使って、本製品と無線機を接続しないでください。
- ◎本製品と無線機を接続するときは、必ず[TRX1]～[TRX3]ポートに接続してください。
[LAN]ポートに接続すると、故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- ◎HUBなどのネットワーク機器との接続は、必ず[LAN]ポートへ接続してください。
[TRX1]～[TRX3]ポートへ接続すると、故障の原因になりますので、絶対に接続しないでください。
- ◎パソコンやACアダプターなどの機器の近くに、本製品と弊社指定のケーブル(別売品)で接続する無線機を設置しないでください。
ノイズの影響を受けて、本製品と弊社指定のケーブル(別売品)で接続する無線機が誤動作することがあります。
- ◎本製品に無線機を2台以上接続する場合、無線機同士の電波干渉を防ぐため、「導入ガイド①」の「無線機の設置距離、チャンネル設定について」を参考にしながら無線機のチャンネルを設定し、無線機同士の距離(携帯型)やアンテナの設置場所(車載型)が近すぎないように注意してください。

- ◎本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機の誤動作を防ぐため、無線機にトーンスケルチ、またはユーザーコード(UC)を必ず設定してください。
詳しくは「導入ガイド①」をご覧ください。
- ◎本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機の誤動作を防ぐため、ポケットビープや個別呼出機能は、必ずOFFに設定してください。
詳しくは、無線機の取扱説明書をご覧ください。お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ◎無線機の音量は、「導入ガイド①」表面の「無線機の設定表」に記載の値に設定してください。
- ◎無線機に向かって話す声が小さいと、強制的に通信が切断されることがあります。
このような場合は、無線機に向かって話す声を大きくし、本製品の「接続設定」→「TRX/EXT」→「無線機(TRX1～TRX3)」内、「VOX制御設定」の「音声スレッシュ」の設定値を小さくしてください。
- ◎端末側無線機とIP電話機を近づけて使用しないでください。
- ◎本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機に携帯型無線機を使用する場合、充電しながら使用しないでください。

☞手順2:無線機、ネットワークの設定については、「導入ガイド①」をお読みください。

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32

高品質がテーマです。

A-6814W-2J Printed in Japan © 2010 Icom Inc.

本書では、本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機の設定、ネットワークの設定について説明しています。
無線機の設定には、お使いになる無線機の取扱説明書をご用意ください。
本書をお読みいただく前に、別紙の「ご使用になる前に」を必ずお読みください。

手順1:ご使用になる前に

手順2:導入ガイド①

手順3:導入ガイド②

1. 無線機の設定について

[重要] 無線機の設定は、無線機を本製品に接続する前に完了させてください。

本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機を下表のように設定してください。
通話チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)、個別呼び出し機能については、端末側無線機も同じ設定にしてください。
設定方法については、無線機の取扱説明書をご覧ください。

無線機の設定表

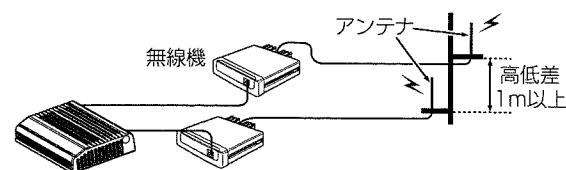
設定項目	製品名		デジタル簡易無線機		
	特定小電力無線機	IC-4800 ¹⁾	IC-D50 ²⁾	IC-DPR5 ³⁾	IC-D5005 / IC-DPR1
通話チャンネル ⁴⁾	単信1~20の任意	1~30の任意(ただし15を除く)			
音量 ⁵⁾	8	5		7	
トーンスケルチ/ユーザーコード(UC) ⁶⁾	トーンスケルチを使用	ユーザーコード(UC)を使用			
ポケットビープ(PB) ⁵⁾		ポケットビープ OFF			
個別呼び出し機能		個別呼び出し機能 OFF			
パワーセーブ機能 ⁷⁾		パワーセーブ機能 OFF			
別売品ケーブル		OPC-1982(1.5m) ⁷⁾ 、OPC-2056(5m) ⁸⁾			OPC-2022(1.5m) ⁷⁾ 、OPC-2057(5m) ⁸⁾

- ¹⁾ 専用の外部電源が必要です。
- ²⁾ 本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機と端末側無線機は、同じ通話チャンネルに設定してください。
- ³⁾ 通話音質に影響しますので、本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機は、上表の値を基準に設定してください。
- ⁴⁾ 予期しない外来雑音やほかの無線機の信号で誤動作しないように、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)を設定してください。
- ⁵⁾ 無線機のビープ音で本製品が誤動作しないように、本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機は、ポケットビープをOFFに設定してください。
- ⁶⁾ 通話開始時の頭切れを軽減させるため、パワーセーブ機能をOFFにしてください。
- ⁷⁾ 延長ケーブル(OPC-647)をお使いいただけます。
- ⁸⁾ 近日発売予定。

[ご参考] 電波干渉の低減について(複数台の無線機を接続する場合)

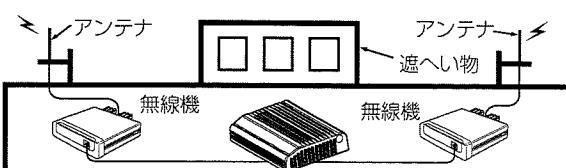
複数台の無線機を接続してご利用になる場合、無線機の相互干渉により通信性能が劣化することがありますので、下記の方法により電波干渉を低減させてください。

[アンテナの指向性を活用する]



水平面に対して指向特性がない無指向性アンテナでも、垂直方向は電波が弱くなります。
2本のアンテナを固定する位置に高低差(1m以上)をつけることで電波が弱くなり、電波干渉が低減することがあります。

[周囲の遮へい物を利用する]



金属補強材が埋め込まれたコンクリート壁や金属製のロッカーなどで、互いのアンテナを遮るような位置に設置すると、電波干渉が低減することがあります。

[Lowパワーに設定する]

アンテナの設置場所を変更しても電波干渉が低減しない場合、本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機の送信出力をLowに設定すると、電波干渉が低減することがあります(無線機の送信出力を変更できる場合に限りです)。

1. 無線機の設定について(つづき)

[ご参考] 無線機の設置距離、チャンネル設定について(複数台の無線機を接続する場合)

本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機が2台以上の場合、無線機の相互干渉を軽減するため、下表のように無線機の通話チャンネルを設定し、アンテナを設置してください。

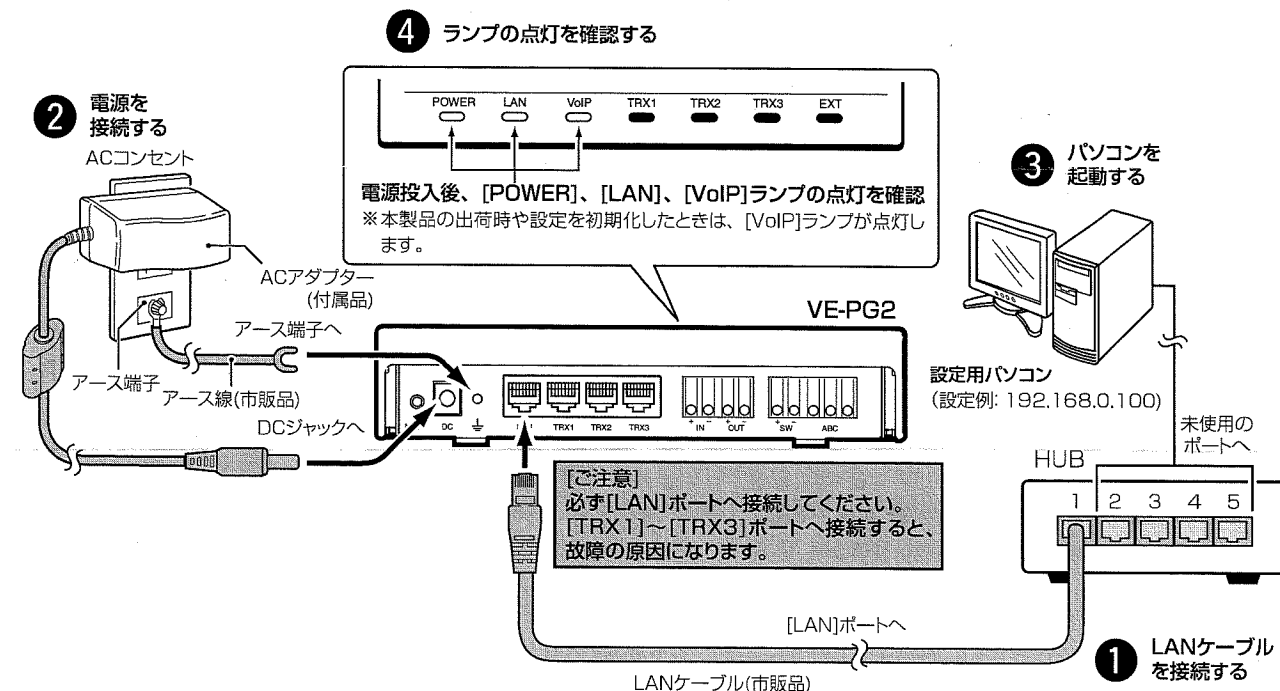
	IC-D50/IC-DPR5 IC-D5005/IC-DPR1	IC-4800
IC-D50/IC-DPR5 IC-D5005/IC-DPR1	推奨チャンネル間隔:10チャンネル以上 推奨アンテナ間距離:5m以上 ⁹⁾	推奨アンテナ間距離:3m以上
IC-4800	推奨アンテナ間距離:3m以上	推奨チャンネル間隔:5チャンネル以上 推奨アンテナ間距離:3m以上

※チャンネル間隔、アンテナ間距離については、どちらも大きくはなすことにより、干渉による影響を軽減できます。
⁹⁾ 必要に応じて、OPC-647(延長ケーブル)をご用意ください。

2. 接続して電源を入れる

次の手順(①~④)で各機器を本製品に接続します。(本製品の電源は、LANケーブルの接続が完了してから入れてください。)

※出荷時の状態で接続するときは、本製品に接続するHUBと既存のネットワークを切りはなしてください。
※本製品の[LAN]ポートは、MDI(ストレート)/MDI-X(クロス)の自動判別機能に対応していません。
※HUBをお持ちでない場合でも、クロス結線されたLANケーブルでパソコンと直接接続できます。



警告

本製品のアース端子は、市販のアース線を使用して、コンセントのアース端子、または地中に埋めたアース棒(市販品)に必ず接続してください。
※落雷したときの電氣的ショックの緩和、感電やノイズの回り込みを防止できます。
※絶対に、ガス管や水道管には接続しないでください。

設定用パソコンのIPアドレスについて

本製品の設定に使用するパソコンには、あらかじめ、固定IPアドレス(例:192.168.0.100)を設定してください。
※パソコンのIPアドレス設定について詳しくは、お使いになるパソコンの取扱説明書をご覧ください。

出荷時のおもな設定値

ネットワーク設定	IPアドレス	192.168.0.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
管理者設定	管理者ID	admin(変更不可)
	管理者パスワード	wavemaster(小文字)

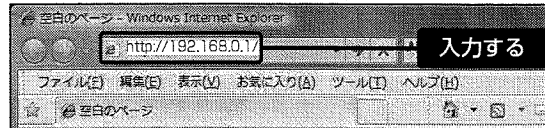
※設定値を出荷時に戻す場合は、「ご注意と保守について」(別紙)をご覧ください。

3. 設定画面にアクセスするには

アクセスのしかた

本製品に接続したパソコンのWWWブラウザから、本製品を設定する画面にアクセスする手順について説明します。

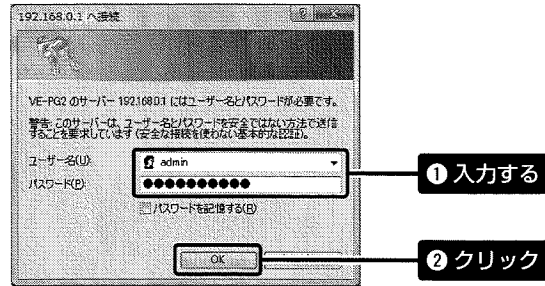
- 1 WWWブラウザを起動し、WWWブラウザのアドレスバーに、本製品に設定されたIPアドレスを入力します。



※上図は、出荷時の設定(192.168.0.1)を入力した場合です。

- 2 [Enter]キーを押します。
[ユーザー名(U):]、[パスワード(P):]を求め画面が表示されます。

- 3 [ユーザー名(U):]欄に「admin」、[パスワード(P):]欄に「wavemaster」(出荷時の設定)を入力し、<OK>をクリックすると、本製品の設定画面が表示されます。

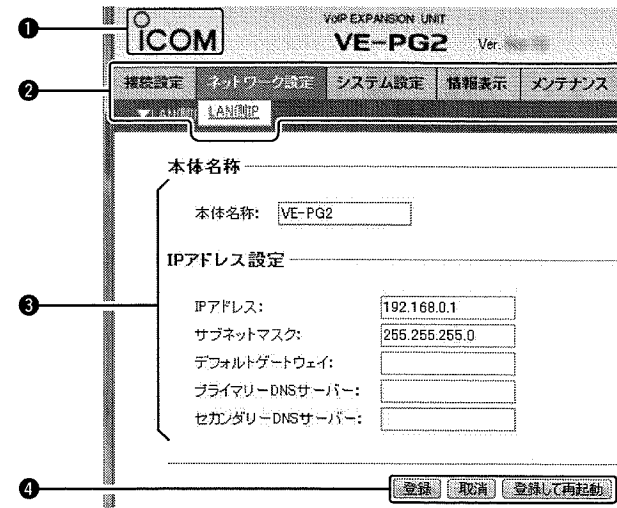


WWWブラウザについて

Microsoft Internet Explorer 8で動作確認しています。
設定画面が正しく表示できるように、WWWブラウザのJavaScript機能、およびCookieは有効にしてください。
※ Microsoft Internet Explorer 7以前をご使用の場合は、正しく表示できないことがあります。

設定画面の名称と機能について

本製品の設定画面の名称と各画面に含まれる項目を説明します。
※設定画面の構成については、付属のCDに収録の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。



1 ホームページのリンク

インターネットに接続できる環境で、アイコンをクリックすると、弊社のホームページを閲覧できます。

2 設定画面選択メニュー

各メニューのタイトル上にマウスポインターを合わせると、そのメニューに含まれている画面名(例: LAN側IP)の一覧を表示します。
※接続設定メニュー内の階層がある画面名(例: IP網接続)の右側には、▶印が表示されます。

3 設定画面表示エリア

[設定画面選択メニュー]で選択したメニューに含まれる画面名(例: LAN側IP)をクリックしたとき、その画面の内容を表示します。

4 設定ボタン

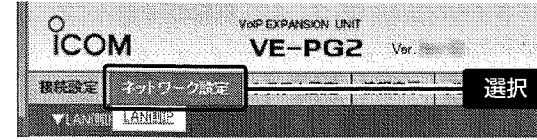
設定した内容の登録や取り消しをします。
<登録>をクリックして、「再起動が必要な項目が変更されています。」と表示されるときは、<登録して再起動>をクリックすると、画面上で設定した内容が再起動後に有効になります。
再起動中は、下記の画面を表示します。

本体を再起動しています。
本体の起動を確認後、[Back]をクリックしてください。

※再起動が完了(約30秒)するまで、[Back]と表示された文字の上にカーソルを移動してクリックしても、設定画面に戻りませんので、しばらくしてから再度クリックしてください。
※表示画面によって、表示されるボタンの種類や位置が異なります。

4. 本製品のネットワーク設定

- 1 「ネットワーク設定」メニューから、「LAN側IP」をクリックします。
※「LAN側IP」画面を表示します。



- 2 本製品のIPアドレス、サブネットマスクを設定します。
※ほかの機器に設定されているIPアドレスと重複しないようにご注意ください。
※ファームウェアのオンライン更新機能を使用する場合は、本製品をインターネット環境に接続し、そのネットワークで使用されているデフォルトゲートウェイやDNSサーバーアドレスを設定してください。
※設定後、<登録して再起動>をクリックしてください。

IPアドレス設定

IPアドレス:	192.168.0.1	入力
サブネットマスク:	255.255.255.0	
デフォルトゲートウェイ:		
プライマリDNSサーバー:		
セカンダリDNSサーバー:		

登録 取消 登録して再起動

クリック

手順3:ブリッジモード、コンバーターモードの設定については、「導入ガイド②」をお読みください。

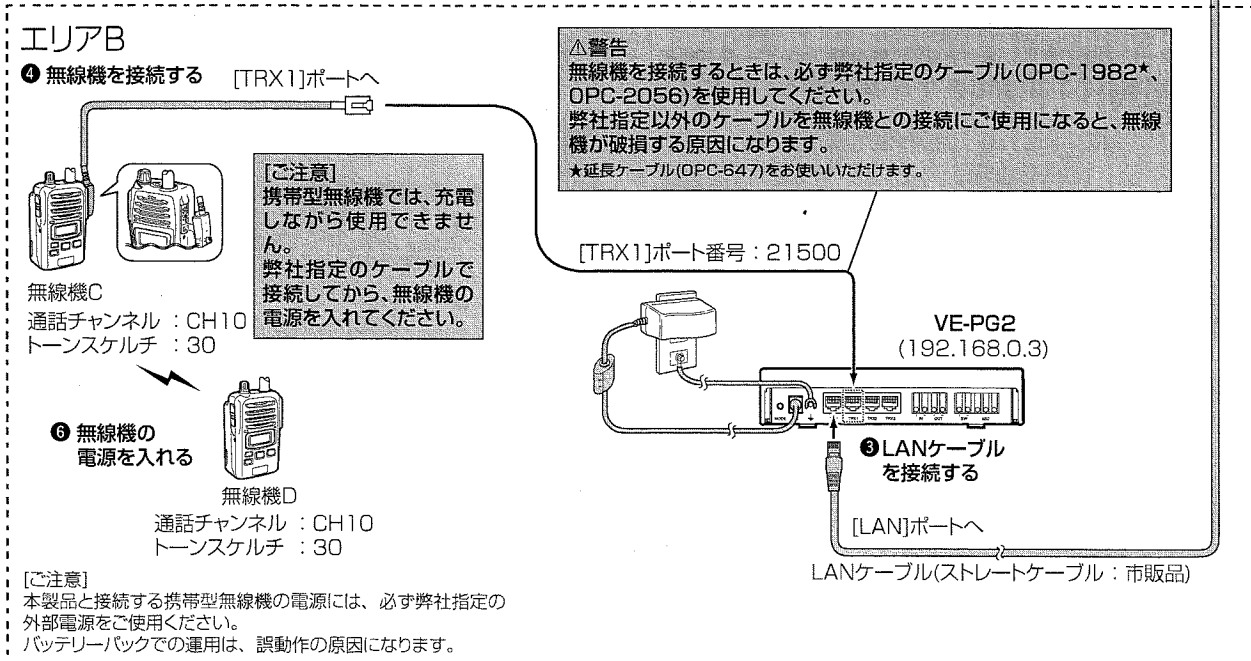
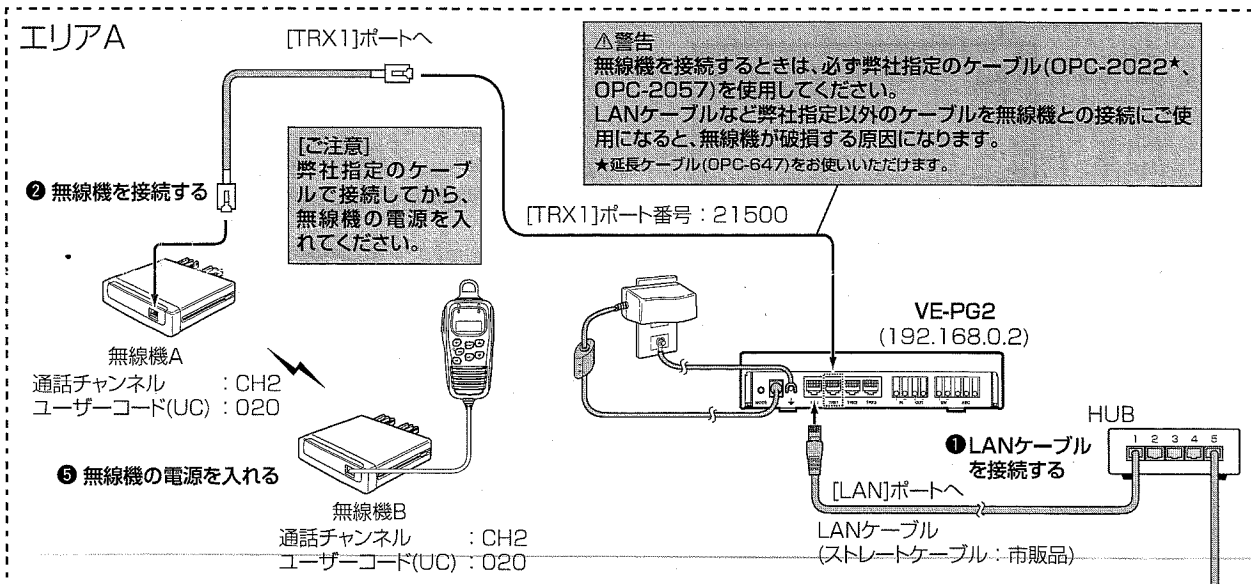
本書では、本製品をブリッジモード(ユニキャストモード)、コンバーターモードに設定する方法について説明します。
本書をお読みいただく前に、別紙の「導入ガイド①」を必ずお読みいただき、無線機の設定、本製品のネットワークの設定を完了してください。

手順1:ご使用になる前に → 手順2:導入ガイド① → 手順3:導入ガイド②

「接続の前にお読みください」も合わせてご覧ください。

1 本製品に無線機、ネットワークを接続する ブリッジモードで使用する

- マルチキャストモード(初期設定値)でご使用になる場合、下図のように接続し、本製品のIPアドレスを設定するだけでご使用いただけます。☞「導入ガイド①」を参照
- 接続完了後、「3. 無線機の設定」をご覧ください。
- ユニキャストモードでご使用になる場合、下図のように接続後、右面をご覧ください、本製品を設定してください。
- マルチキャストモード、ユニキャストモードについては、「ご使用になる前に」をご覧ください。

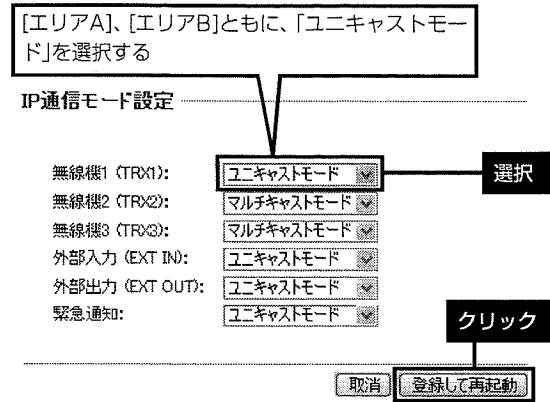


2 本製品をブリッジモードに設定する

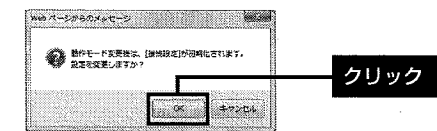
ブリッジモードで使用する

1. 「IP通信モード設定」の設定

- ① 左図のように接続完了後、同一ネットワークから、本製品の設定画面(☞導入ガイド①)にアクセスします。
- ② 「接続設定」メニューから「動作モード」をクリックし、「IP通信モード設定」項目の「無線機1(TRX1)」欄で、「ユニキャストモード」を選択します。
- ③ <登録して再起動>をクリックします。



- ② 「WEBページからのメッセージ」画面を表示しますので、<OK>をクリックします。

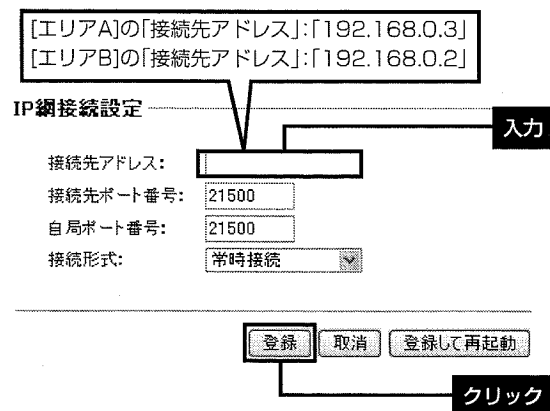


※「動作モード」画面の設定を変更すると、「接続設定」メニューの設定内容が初期化されますので、ご注意ください。
必要に応じて設定ファイルとして保存することをおすすめします。
保存方法については、付属のCDに収録するVE-PG2取扱説明書をご覧ください。

- ③ 再起動完了(約30秒)後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

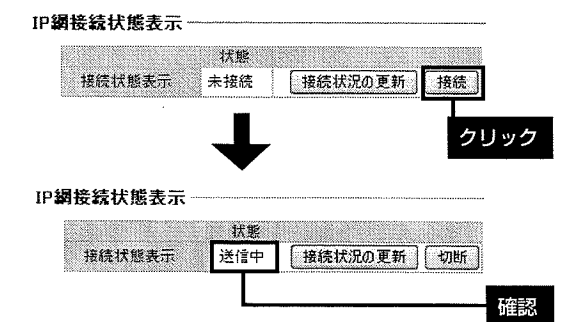
2. 「IP網接続」-「無線機1 (TRX1)」の設定

- ① 「接続設定」から「IP網接続」→「無線機1 (TRX1)」をクリックします。
- ② 「IP網接続設定」項目の「接続先アドレス」欄に、接続先となる本製品のIPアドレスを入力します。
(例)左図では、[エリアA]の本製品に「192.168.0.3」を設定し、[エリアB]の本製品に「192.168.0.2」を設定します。
- ③ <登録>をクリックします。



2. 「IP網接続」-「無線機1 (TRX1)」の設定(つづき)

- ② 「IP網接続状態表示」内の「接続」をクリックして、「状態」項目が「送信中」になっていることを確認します。



3. 無線機の設定

左側の紙面に記載する接続図に対する設定例です。

- ① 本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機A、無線機Cの電源を入れます。
音量は「導入ガイド①」を参照して設定してください。
- ② 無線機B、無線機Dの電源を入れて、無線機A、無線機Cと同じ運用チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)に設定します。
※エリアA内で無線機Aと無線通信するすべての無線機は、無線機Aと同じ設定にします。
同様に、エリアB内で無線機Cと無線通信するすべての無線機は、無線機Cと同じ設定にします。
運用チャンネルなどの設定のしかたは、無線機の取扱説明書をご覧ください。
(例)左図では、[エリアA]の無線機Bの通話チャンネルをCH2に、ユーザーコード(UC)を020に設定します。[エリアB]の無線機Dの通話チャンネルをCH10に、トーンスケルチを30に設定します。
※無線機B、無線機Dの音量、ポケットビープ(PB)、パワーセーブ機能は、ご利用になる環境に合わせて、お好みの設定でご使用ください。

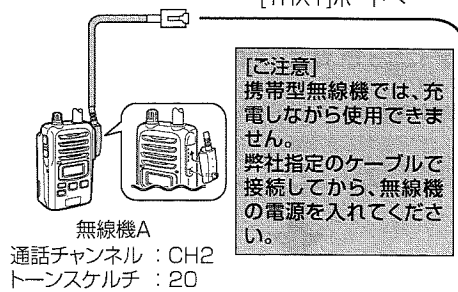
4. 通話のしかた

左側の紙面に記載する接続図に対する使用例です。

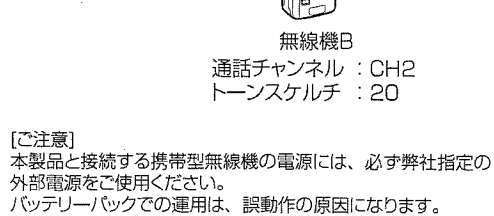
- ① [エリアA]の無線機Bで[PTT]スイッチを押しながら発声して、[エリアB]の無線機Dに呼びかけます。
呼びかけたあと、[PTT]スイッチをはなします。
- ② 無線機Bから呼びかけられた無線機Dも、[PTT]スイッチを押しながら発声して、[エリアA]の無線機Bに回答します。
通話が終わったら、[PTT]スイッチをはなします。
- ③ 手順1、2を繰り返して通話します。

1 本製品に無線機、ネットワークを接続する **コンバーターモードで使用する**

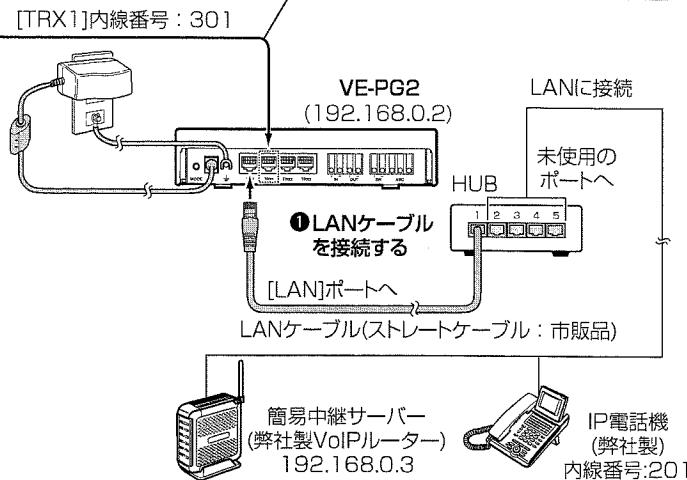
2 無線機を接続する



3 無線機の電源を入れる



△警告
無線機を接続するときは、必ず弊社指定のケーブル(OPC-1982*、OPC-2056)を使用してください。
弊社指定以外のケーブルを無線機との接続にご使用になると、無線機が破損する原因になります。
*延長ケーブル(OPC-647)をお使いいただけます。



2 本製品をコンバーターモードに設定する **コンバーターモードで使用する**

※「Peer to Peer発信」でご使用になる場合は、CDに収録の取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

1. 弊社製VoIPルーターの設定

SR-53VのWeb設定画面を例に説明します。

※ご使用になるIP電話機(弊社製、内線番号:201)が、簡易中継サーバー機能の設定と「子機内線設定」項目への登録が完了していることを前提に説明しています。

※詳しくは、お使いになる弊社製VoIPルーターの取扱説明書をご覧ください。

1 [TRX1]ポートの内線番号(301)を弊社製VoIPルーターの「内線設定」-「子機内線設定」画面に登録します。
①「子機内線設定」の「番号」、「名前」、「内線番号」、「パスワード」などを入力します。
(例)左図では、「番号」に「2」、「名前」に「無線機1(TRX1)」、「内線番号」に「301」、「パスワード」に「301」を設定します。

② [追加]をクリックします。

TELポート内線設定			
内線番号	グループ番号	発信設定 (SIPサーバ)	発信設定 (Peer to Peer)
TEL	1	1	1

子機内線設定			
番号	名前	内線番号	グループ番号
2	無線機1(TRX1)	301	1

発信設定			
SIPサーバ	Peer to Peer	電話回線へ自動迂回	CGI認証
1	1	する	ID: パスワード:

2 [現在の登録]項目に追加されたことを確認します。

現在の登録						
すべて	番号	名前	内線番号	グループ	発信設定 (SIPサーバ)	発信設定 (Peer to Peer)
<input type="checkbox"/>	1	IP電話機201	1	1	1	1 (sr53v)
<input type="checkbox"/>	2	無線機1	301	1	1	1 (sr53v)

2. 「動作モード」の設定

- ① 上図のように接続完了後、同一ネットワークから、本製品設定画面(※導入ガイド①)にアクセスします。
- ② 「接続設定」メニューから「動作モード」をクリックし、「動作モード設定」項目の「動作モード」欄で、「コンバーターモード」を選択します。
- ③ 「登録して再起動」をクリックします。

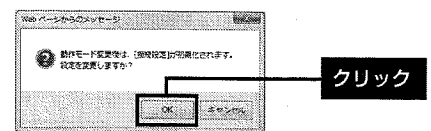
動作モード設定

動作モード: **コンバーターモード** (選択)

外部入出力モード設定

外部入出力: **入出力を分離して使用** (クリック)

2 「WEBページからのメッセージ」画面を表示しますので、[OK]をクリックします。



※「動作モード」画面の設定を変更すると、「接続設定」メニューの設定内容が初期化されますので、ご注意ください。
必要に応じて設定ファイルとして保存することをおすすめします。
保存方法については、付属のCDに収録するVE-PG2取扱説明書をご覧ください。

3 再起動完了(約30秒)後、[Back]と表示された文字の上にマウスポインターを移動してクリックします。

2 本製品をコンバーターモードに設定する(つづき) **コンバーターモードで使用する**

3. 「無線機1 (TRX1)」の設定

- 1 「接続設定」メニューから「IP網接続」→「無線機1 (TRX1)」をクリックします。
[VoIP発信設定]項目を例のように入力します。
◎発信先IP電話機の「電話番号」を入力します。
(例)左図では、「[SIPサーバ発信]」のチェックボックスをクリックし、「電話番号」に「201」を設定します。

VoIP発信先設定

発信先選択: SIPサーバ発信 Peer to Peer発信

電話番号: 201

SIP URG: sip

- 2 ① [SIPサーバ接続設定]項目を例のように入力します。
(例)左図では、「[IP電話番号]」に「301」、「[SIPサーバアドレス1]」と「[SIPサーバアドレス2]」に「192.168.0.3」、「[ユーザーID]」と「[パスワード]」に「301」を設定します。
② 「登録」をクリックします。

SIPサーバ接続設定

IP電話番号: 301

SIPサーバアドレス1: 192.168.0.3

SIPサーバアドレス2: 192.168.0.3

SIPサーバドメイン: 192.168.0.3

ユーザーID: 301

パスワード: ***

発着番号通知: しない する

登録時間: 600 秒

再登録間隔: 通常時: 50 % 異常時: 50 %

3 下記の画面が表示されたら、「接続状態の更新」をクリックして、「状態」項目が「接続成功」となっていることを確認します。

接続状態表示

状態: **接続成功** (確認)

接続状態の更新 (クリック)

再接続 (クリック)

※「状態」項目が「接続成功」にならない場合、弊社製VoIPルーターに接続できていないので、弊社製VoIPルーターの子機内線設定および本機SIPサーバ接続設定を確認してください。

4. 無線機の設定

左側の紙面に記載する接続図に対する設定例です。

- 1 本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機Aの電源を入れます。
音量は「導入ガイド①」を参照して設定してください。
- 2 無線機Bの電源を入れて、無線機Aと同じ運用チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)に設定します。
※本製品と弊社指定のケーブルで接続する無線機Aと無線機Bの電源を入れて、無線機Aと同じ運用チャンネル、トーンスケルチ/ユーザーコード(UC)に設定します。
※無線機Bの音量、ポケットビープ(PB)、パワーセーブ機能は、ご利用になる環境に合わせて、お好みの設定でご使用ください。

5. 通話のしかた

左側の紙面に記載する接続図に対する使用例です。

- 1 無線機Bで[PTT]を押しながら発声して、IP電話機を呼び出します。
※発声後は、[PTT]スイッチをはなしてください。
※IP電話機の呼び出し音が鳴ります。
- 2 呼び出されたIP電話機の受話器を上げて応答し、無線機Bに返答します。
- 3 IP電話機側が話し終わってから、無線機Bで[PTT]スイッチを押しながら話します。
また、無線機Bが話し終わってから、IP電話機側で発声して通話します。
※電話機同士のような双方向通話はできません。無線機B、IP電話機のどちらかが話し終わってから、もう一方が話してください。
※IP電話機が受話器を置くと、通信が切断されます。
無線機B、IP電話機ともに無音状態が約15秒*つづいても、通信が切断されます。
*「接続設定」→「VoIP詳細設定」→「無線機1 (TRX1)」～「無線機3 (TRX3)」の「自動切断タイマー設定」項目で0～600秒の範囲で設定できます。
- 4 IP電話機から無線機を呼び出す場合は、内線301に発信します。
発信成功後、通話状態となりますので、発声して無線機を呼び出します。

高品質がテーマです。

A-6814W-4J Printed in Japan © 2010 Icom Inc.